

重要文化財「山水図」(拙宗筆)の保存修復事業レポート ②

2024年月6月に修復事業を開始した重要文化財「山水図」(拙宗筆)について、進捗状況をご報告します。

①本紙の調査中には見えていなかった、付け回しのりしろ部分に補紙の帯があてられていることが新たにわかりました。補紙の除去と残置については、残すと段差ができてしまい保存に影響が出てしまう一方、補紙の除去では補紙と本紙の材質が類似しているため、本紙を除去してしまうリスクも出てきてしまいます。

以上のことも踏まえ、今回新たにわかった補紙の部分については、重なりが取れる範囲でできる限り除去することとなりました。

②本紙の裏側に一番近い肌裏紙の選定を行いました。

今回の修理では二層の肌裏紙を使用します。一層目の肌裏紙は作品の色合いに大きく影響するため、色合いの違う肌裏紙を数パターン検討し、最終的には赤みのある薄茶色の美栖紙に決定しました。



▲旧肌裏紙の除去作業1



▲旧肌裏紙の除去作業2

③一層目の肌裏紙が打ち終った段階で本紙の傷の部分が緩和されたことを確認し、二層目の肌裏紙の選定を改めて行いました。実際の本紙の持っている色合い（素地）的には全体が暗くならないほうがよいため、二層目では本紙の見え方に比較的影響の少ない薄白茶の色味に決定しました。



▲肌裏紙打ち

▶表装裂の取り合わせの様子



④本作は表装裂の元使いが難しいため、新たに表装裂の選定を行いました。

数種の取り合わせを提案していただき、実際に本紙に裂を沿わせて確認及び協議を行ったところ、以下の取り合わせに決定しました。

一字文：丹地角龍文金襷

中廻：薄茶地菱地文に飛花文金襷

上下：茶地無地裂

本作品は2024年4月から住友財團の文化財保存修復事業助成を受けて、本格的な修理に着手しています。完成は2027年3月を予定しておりますので、続報をお待ちください。